

ユニオンガール'S TALK

No.4

ふかさわ えいこ
深澤 栄子さん

連合群馬女性委員会 副委員長
スズラン労働組合 本部評議員



たくさんの方とのつながりを実感できます

はじめまして、ユニオンガール'S TALKへようこそ

一普段のお仕事を教えてください

いつもスズランをご愛顧いただきありがとうございます。地域の皆様に親しまれ当社も創業65年、労働組合は設立35年という節目にあたります。現在は400名以上の組合員が前橋店と高崎店、本社、物流に配属されています。私は、今年4月より前橋店7階のリビングフロアで、主に生活雑貨の販売をしています。実は就職して20数年の間、異動がなかったのですが、“サプライズ人事”にびっくり(笑)。でも新たな場所でチャレンジだと思っています。ちょっと悩みもありまして、配置されているフロアは上司や社員も多くて実はシフトが組みづらく、今は女性委員会の活動になかなか参加できていないんです。

一組合活動はどうですか？

18年位前でしょうか、“2年任期の順番制”と言われて支部評議員に、その後、本部評議員として10年位になります。聞きなれないかもしれませんが、執行委員にあたりますかね。主に会社との交渉役となる常任委員がいますが、組合での決定事項や周知することなどを支部評議員への伝達役となっています。

組合として大きな行事は、定休日を利用し8月にはディズニーバスツアーを企画し毎年多くの方に参加をいただいています。今年ももちろん参加しますが、ここ数年は、自営業で忙しく働く弟夫婦の小学校1年生の甥っ子と2人で参加しています。甥っ子くんはいわゆる絶叫系は苦手、でも少しずつ興味や楽しみ方も変わってきて『えいこ姉』としては成長をととても楽しみにしています。

話はそれでしたが、組合としては単組活動に留まらず、UAゼンセン県支部のネットワークを活かした研修会が目白押しなので、組合員への声掛けはもちろん、私も積極的に参加しています。先日山形新幹線でカリスマ車内販売員と言われた茂木久美子さんの講演や料理教室、フラワーアレンジメントなど女性視点に立った役立つ企画が嬉しいです。

一職場では係長と聞きました

女性の係長は4名います。私は2年位前に係長の職に就きました。いまでは男性係長には言いづらいからと、担当は違えども相談してくれる従業員もいます。組合役員をしているというのもあるかもしれませんね。係長としても職場のフォローはありますが、上司はもちろん主任と協力しているので仕事も負担なくやっています。

一女性委員会の活動はどうか？

以前、関東ブロック会議に参加して、具体的な内容はちょっと言えませんが、職場では当たり前だと思ったことを話したら、異業種の方の職場では、それは当たり前ではない。改善が必要だということが分かり、叱咤激励も受けて衝撃でした。

そうそう、実は女性委員会の幹事としての選出を、総会の席で机上の資料を見て初めて知りました。同期の「セミナーに参加して」との一言だったと思っていたのに、なぜか役が付いていて…(苦笑)。でも感謝しています。なんとと言ってもたくさんの方とつながりを実感できますから…。

幹事になりたてのころは、委員会に出席しても端でお弁当を静かに食べていましたが、先輩方にガンガン声をかけてもらって楽しい雰囲気を作ってもらいました。開催案内が来て、委員会に出席しただけだとやっぱり、言いたいことも言えないですね。私が経験させていただいたように、特に新しい委員の方が早く慣れて参画しやすいように、時には“時間外交流”を入れつつコミュニケーションを大切にしていきたいです。

甥っ子くんと毎年楽しみにしている
ディズニーランド



Listener 吉田 香苗



「働くことを軸とする安心社会の実現」って、皆さんも一度くらい見たり、聞いたことがあると思います。これ、連合が2020年までに「目指すべき社会の姿」として目指している政策なんです。

「働くことを軸とする安心社会の実現」って、皆さんも一度くらい見たり、聞いたことがあると思います。これ、連合が2020年までに「目指すべき社会の姿」として目指している政策なんです。

ちょっと振り返りますと、あのバブル経済の崩壊を経て、企業は「株主利益優先」の経営姿勢を強め、短期的利益を確保するため人件費抑制策を推し進めました。正規雇用から非正規雇用への置き換えが進み、平均給与所得も(1997年をピークに)減少を続ける中で、それまで安定した雇用の下で社会を支えてきた多くの中間層が一極化し、いわゆる「格差社会」への変貌が始まりました。

以降、進行する格差社会にあって連合は、2010年この「働くことを軸とする安心社会の実現」にむけた政策を確立し、今日まで活動を進めてきています。その当時は、2009年の民主党(当時)政権の誕生という背景もありました。

その概要は、「連合が目指す「安心社会」を、ディーセント(公正・適正)な雇用が保障され、病氣、失業、子育て、老後など、人生のすべての段階におけるあらゆるリスクに対応できる制度が確立され、積極的に生きていこうとする人びとへの支援が提供される社会」として、現在のように非正規労働者が4割(女性に限れば6割)、平均の年収額180万円、母子家庭の貧困率5割…を直視し改善していかなければ、ということにあります。

これらの課題は、もちろん労使関係で解決できるものではなく、国の制度・政策に関わる事項。2012年に自公政権が復帰して以来、格差拡大の流れは一回に収まりません。

「雇用も所得も賃上げも」の自民党TV広告に歯ざしりをしながら、取り組みの重要性を痛感していました。格差社会の広がりは一層厳しくなるのは明確定でありませぬ。働く者・未来のために私たちは引き続き活動を進めます。

(伊能)